

平成30年度 第1回（震災後87回）

陸前高田市未来図会議 議事録

テーマ：「他分野が仕掛ける“はまかだ”」

日時：平成30年5月31日(金) 13:30～15:30

場所：夢アリーナたかた ミーティングルーム

参加：45名20団体

資料：別紙参照

1 挨拶（陸前高田市民生部保健課包括支援係 副主幹 佐藤 咲恵）

「陸前高田市保健医療福祉未来図会議」であったが、会議を進める中で「はまかだ」運動が生まれた。それを意識して健康づくり介護予防に取り組んできた。市民の方々、他の組織の方々も「はまかだ」して健康づくりに繋がる活動をしている。

今後は、「陸前高田市未来図会議」として開催する。

2 内容

(1) 「未来図会議について」

陸前高田市 民生部保健課保健係 保健師 佐藤 沙希

「はまかだ」とは、気仙地域の言葉でまっけてらいん（仲間に入って）、かだっけてらいん（話しましょう）の略称。立ち話やご近所でのお茶っこのみ、趣味仲間での集まりなど、いつでも・どこでも・なんでもが“はまかだ”と言える。お話を聞いてもらったり、時間を共有することでお互いの心と体が健康になるいいこと。

地域に未来図会議から広める運動。「未来図会議」は健康で文化的な生活及びノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの実現を目指している。これまでは、「陸前高田市保健医療福祉未来図会議」であったが、今後は、「陸前高田市未来図会議」として開催する。未来図会議は健康や幸せを感じられるまちづくりの実現に向けて議論する場である。

SAVE TAKATA、まちづくり協働センター、復興支援連絡会の島倉氏など「はまかだ」を仕掛けているの方々にもご協力いただきながら企画運営を進めていく。様々な分野でより良いまちづくりのために進めていくことが幸せを感じられる、ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりにも繋がるのではないか。分野を超えて互いを認め合ってアドバイスやヒントを共有し、健康や幸せを感じられるまちづくりの実現に向けて「はまかだ」できる場にしていきたい。

(2) 「グッジョブケセンについて」

一般社団法人 陸前高田青年会議所 地域の未来創造委員会 委員長 加藤 隆史
青年会議所は全世界にある。次世代の地域の課題解決に向けた事業や取り組みを

して地域を良くしていこうと活動をしている団体。子どもの夢を育成する委員、地域の課題解決を中心に行っている委員がある。私は、地域の未来を創造するという名称のついた委員長をしている。8/12（日）、夢アリーナで職業体験のイベントを行う。陸前高田市、大船渡市、住田町の小学3年生から小学6年生が対象で定員60名。SAVE TAKATAや住田町青年会議所の協力で行う。事業所20か所を募集している。出店事業所は伊東文具と長谷川建設などが予定している。5/31（木）現在で10事業所の応募がある。8月で繁忙期であること、食品の取り扱いが難しいということもあり、飲食店の出店が少ない。菓子を販売できる場所を探してみる。中高ボランティアスタッフも募集する予定。子どもたちの将来の可能性を広げて、夢として思い描いて欲しいという願いからイベントを行う。

事業イメージは受付→ハローワーク（職業選択）→職場体験→銀行→消費体験。体験事業は体験から社会の仕組みを知り消費体験をする。

陸前高田市は人口減少の問題を抱えている。子どもたちの人口が減っている。就職、転職、進学による転出で人口が減少している。Uターンを促進したい。人口減少の課題解決になればと思っている。職業体験を通じて陸前高田の楽しいやりのあるところを発見してもらうこととイベントを通して楽しみを知る仕組みを盛り込んでいる。職業選択の可能性を広げることと地域密着の形成が目的。思い出に残るようなイベントになればいい。

◆佐々木亮平先生→青年会議所から子供たちに「はまかた」を仕掛けていく。

◆金野良則薬剤師→気仙薬剤師、当会でも出店検討したい。

(3) 「夢アリーナたかたの施設概要と理念」

陸前高田市 生涯学習課スポーツ推進係 副主幹 岡渕 貴悦 氏

＜施設概要の説明＞別紙資料参照。

ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくりをコンセプトに誰もが使いやすいようにユニバーサルデザインを徹底して、多くの皆様に活用していただくよう設計した。西側観覧席を800席用意していたが、車いすスペースを34席設けた。駐車場からフロアに入って段差がない。1階フロアすべてがフラットな設計になっている。色々な事業を実施していきたいと考えている。生涯スポーツ振興、交流人口の拡大、地域活躍復興になるような運営をして行きたい。

◆参加者→車椅子は移動手段であるって、ずっと座る椅子ではない。移乗したら椅子はあるのか？階段の段差が小さくて良かったが、境目が降りる時に分かりづらい。実際に体験してみて改善すれば、もっといいデザインになるのでは。

◇岡渕補佐→ハード的な面では設計の段階から各団体にはご意見をいただいていた。今後、見ていただいて、ご意見をいただきたい。今後道具についても、ニュースポーツとか気軽にできるようなところを考えていきたい。

◆佐々木 亮平先生→壁の色はグレー、白はなぜ？

◇岡渕補佐→全教育長が携わっていたが、色に関しては分からない・・・。

◆佐々木 亮平先生→色々な活動が人を繋げるきっかけになる。

(4) 「観光から見た“はまかだ”」

一般社団法人マルゴト陸前高田 代表理事 伊藤 雅人 氏

2014年から修学旅行や企業研修の民泊の推進に着手した。災害ボランティアではなく、これからの交流人口の拡大を行っていくために作られた組織。2017年から本格的に受け入れを開始している。民泊を通して達成したいことは、陸前高田の魅力を改めて感じる町への愛着と誇りを育んでいただく、心の交流を通じて活気と楽しさをもたらす、この町でしかできない学びを体験してもらう、物心両面の豊かさを、ということで受け入れをさせていただいている。

2017年約650名（実数）。2018年約1,650名（見込）。2019年約3,000（見込）。市内での受け入れ件数200件。岩手県最大規模の受け入れ件数。学校のリピート率8割。大人の修学旅行（企業研修）では関東圏で40社、1,300から1,400名で研修をしている。今年は1.5倍になる予定。既存のもの漁業と農業でプランを作っている。

今後は、パラスポーツの聖地を目指して様々な企画予定している。

◆佐々木 亮平→交流を通じてお互い良さを知る。スポーツを通じて子どもたちに「はまかだ」を仕掛けていく。

◆SAVE TAKATA（佐々木氏）→パラスポーツについて協働体制ということについてはどう考えているか。

◇伊藤 雅人氏→市民講座、合宿、大会の誘致を考えている。協力をいただきながら進めていくことになると思う。

◆SAVE TAKATA（佐々木氏）→観光は色んな分野の人を巻き込める。

◆鈴木 秋子氏→民泊で空き施設を利用していただけたら・・・。

◇伊藤 雅人氏→交流、触れ合いをもってもらいたいと考えている。

◆佐々木 亮平→高田に誇りが持てる仕掛けをしていただいている。ありがたい。

(5) グループワーク（ワールドカフェ形式）

テーマ「参加者それぞれのはまかだ」

(6) 「“はまって、かだって”に始まる

ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくり」

陸前高田市ノーマライゼーション大使 岩室 紳也

陸前高田市の女性の平均寿命は今や岩手県でナンバーワン。間違いなく「はまかだ」がいいということ。地域のつながりを強化しましょう、と掲げている。

お互い様の「はまかだ」ができると信頼関係が生まれる。健康づくり、町おこしにもなる。

「コミュニケーション行為」とは、自己中心的な成果を思考する戦略的行為。つまり強制無き合意形成を目指す行為。

アルコール中毒は、アルコールがダメではなく「はまかだ」ができていないから。薬物がいけないという考え方は、間違っている。「はまかだ」ができていれば、大丈夫。ネズミ、人間様々な実験で立証されている。繋がり絆が良い。人と繋がって

る人たちは健康。今の子供たちが繋がっているのは、機械、スマホ。中身で繋がる「はまってかだつて」が重要である。薬物依存のところでは、全く同じことが言えることが分かった。繋がり、絆、居場所の反対は様々な依存症になる。陸前高田は依存症のないまちづくりに繋がるのかな、依存先を増やすまちづくりの一端の未来図会議になっていただきたい。

★アナウンス

保健課佐藤沙希保健師より、第2回くちビルディング選手権 in 陸前高田の宣伝

★次回（第88回）：平成30年7月26日（木）13：30～15：00

メインテーマ：

会場：陸前高田市役所 東棟第7会議室